

令和元年度 学校評価計画

| 学校教育目標 | 重点目標（中長期的目標） |
|---|--|
| 1. 学力を充実させ、豊かな知性を培う。 2. 自主独立の気風を尊び、創造性を育成する。 3. 情操豊かな心をはぐくむ。 4. 心身ともに健全な人格を養う。 5. 農業に関する科学的理解力と実践的能力を養成する。 | ○ 地域農業及び地域産業に主体的・創造的に貢献できるスペシャリストを育成する。 ○ 地域からの信頼を高め、地域に開かれた、安全で安心して学べるエコロジカル・アグリハイスクールの実現を目指す。 |
| | 今年度の重点目標 |
| | 1. 社会の大きな変化に対応した更農の在り方を検討し、共有と創造を図る。 2. 社会を生き抜くための確かな力を育成する。（授業改善・キャリア教育） 3. 自他を尊重し、暴力・いじめのない安心・安全な学校づくりを目指す。 4. 生徒の能力を最大限に伸ばし、資質を養う教育環境を充実させる。 5. 地域連携活動を通じ郷土に誇りを持ち、魅力ある元気な学校づくりを目指す。 |
| 本年度のカリキュラム・スローガン | |
| <p style="text-align: center;">『 カルチベイト！ーたがやせジブナー 』</p> <p>日々変化していく21世紀、卒業後の長い人生を生き抜いていくための土台を作る高校生活。農業教育を通して基礎的教養と健康な心身を育み、「自分」という圃場を徹底的に耕して種をまき、30年後の未来の人生に「幸せ」という果実を実らせよう。</p> | |

評価の観点

| 評価対象 | 評価項目 | 評価の観点 |
|------|---|--|
| 1 | 学習指導 <ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぶ姿勢 授業改善 基礎学力の定着 | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの授業において「言語活動」を意識し、対話的な学習活動に取り組んでいくことで生徒自らが主体的に学ぶ姿勢を育てていく。 授業評価アンケートを実施して授業改善に生かす。 「基学」、基礎力診断テスト、各種検定の受検、読書週間など多様な取り組みにより、生徒が自ら基礎的な学力の伸長と教養の涵養（自分をカルチベイトすること）を意識するよう図る。 |
| 2 | 生徒指導 <ul style="list-style-type: none"> 規範意識 人権教育 自他の尊重 | <ul style="list-style-type: none"> 規範意識（ルールを守ろうとする気持ち）の向上を働きかける機会を定期的に設けるとともに、お互いを尊重する人権感覚を育てる教育活動を行う。 生徒が円滑な人間関係を築くことができる力を身につけるため、教員・生徒相互に挨拶や礼儀を重んじるとともに、連絡相談など日常的に細やかなコミュニケーションができるような雰囲気醸成していく。 |

| 評価対象 | | 評価項目 | 評価の観点 |
|------|-------------|--|---|
| 3 | キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導 ・自己指導能力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・カルチベイト・ウィークを中心にキャリア教育への取り組みを進め、生徒が自らの未来について考え、将来、社会の中で主体的に生きていくことができるよう図る。 ・卒業時の進路決定を見据えた取り組みを1年次より段階的に行い意識を高めるとともに、進学・就職に必要な学力の育成に努める。 |
| 4 | 社会に開かれた教育活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携 ・地域資源の教材化 ・自主活動（生徒会・クラブ） | <ul style="list-style-type: none"> ・「信州学」など地域の資源に着目した教育活動や各種交流活動に取り組み、地域とのつながりを意識し、将来、地域のために貢献できる人材の育成に努める。 ・生徒会・農業クラブ及び課外クラブ活動への生徒の自発的な参加と主体的な活動に取り組むように促す。 |
| 5 | 農業教育 | 1年（基礎教育） | 農業科の基礎科目の学習を通して、2年進級次のコース選択において自ら積極的な選択ができるよう指導する。 |
| | | A 生産技術 | 作物生産技術を中心に、機械、土木系資格取得、技能習得に積極的に取り組み、関連する地域産業に貢献する人材育成を目指す。 |
| | | B 流通経済 | 簿記能力検定において商業科卒業生徒と同等以上の技能を習得し、事務・販売・流通系で活躍が可能であり、かつ水稻を題材とした研究を深めて4年制大学、短大、大学校への進学もできる人材の育成を目指す。 |
| | | C 食品科学 | 食品の成分分析ならびに食品加工技術を学ぶとともに、地域の農産物を生かした加工品の開発などを目指し、食品関連産業に貢献できる人材を育成する。 |
| | | D 環境科学 | 身近な環境についての各種調査・研究活動を意欲的に取り組むと同時に、その成果をもとに信州の環境の実態やこれからの農業についての自分たちの考えを様々な機会に発信し、地域の環境や農業を守る人材を育成する。 |
| | | E アグリネットワーク | 栽培基礎的な学習とその利用について考え、農業の楽しさ・食の大切さなどを地域に発信するための「農業」「園芸」を活かした交流活動を考えて実践する。活動を通して地域と社会に貢献する意識と、自らのコミュニケーション能力を向上させ、卒業後も多方面において活躍できる力を養う。 |
| | | F 園芸デザイン | 草花の栽培管理の知識・技術を身につけるとともに、それを生かした交流・販売活動を実践する。地域連携を経験することでコミュニケーション能力を養成し、地域貢献できる人材を育成する。 |
| | | G 施設野菜 | 施設を中心とした野菜栽培に関する知識と技術を習得し、野菜の特性や栽培に適した環境を理解する。地域農業と生産現場の担い手となるスペシャリスト養成と、地域社会に主体的に貢献できる人材育成を目標とする。 |
| | | H 果樹科学 | 果樹の栽培管理を通じて、知識・技術ならびに態度を身につけ、地域産業の担い手を育成するとともに、地域社会に主体的に貢献できる人材育成を目指す。 |